

## SPECIAL REPORT

# 令和4年度（第61回） 農林水産祭天皇杯等の選賞について

農林水産祭中央審査委員会（会長 伊藤 房雄氏）において、令和4年10月4日、令和4年度（第61回）農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者が決定した。表彰は、勤労感謝の日の11月23日、明治神宮会館（東京都渋谷区）で開催した農林水産祭式典において行われた。

## 1. 農林水産祭天皇杯等の選賞とは

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37（1962）年から実施されている。

本年度の天皇杯（表1参照）、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（令和3年7月～令和4年6月）の農林水産祭参加表彰行事（230件）において、農林水産大臣賞を受賞した392点の中から決定された。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与された。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与された。

## 2. 畜産関係受賞者の概要

### (1) 天皇杯

- 出品財 技術・ほ場（飼料生産部門）  
【地域畜産業の基盤となる大規模自給飼料生産・活用型TMRセンター】
- 所在地 熊本県菊池市

- 氏名等 株式会社 アドバンス（代表 永田 浩徳）
- 表彰行事 第8回全国自給飼料生産コンクール
- 受賞理由

### (1) 地域の概要

菊池市は、熊本県の北部に位置し、農業産出額383億円のうち77%を畜産が占め、畜種別では豚、肉用牛、乳用牛の順である。菊池地域の乳用牛飼養頭数は、生乳生産量西日本一である熊本県の約4割を占め、酪農の盛んな地域である。

### (2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

飼料用トウモロコシの生産・サイレージ（家畜用発酵飼料）調製及びTMR（完全混合飼料）製造・供給を目的とした大規模自給飼料活用型TMRセンター（酪農家21戸で構成）として平成19年から酪農家への飼料供給を始めた。育成牧場を平成28年度に併設し、預託を受けた乳用種育成牛に黒毛和種牛の受精卵を移植することで和牛子牛の供給も始め、地域の酪農・和牛生産振興の中核となっている。

### (3) 女性の活躍

従業員7名のうち2名が女性であり、事務担当の1名がほ場作業の管理他、書類作成・提出等を一手に担うことにより、他の従業員は飼料生産や育成牧場管理に専念することができ、経営の効率化と生産性の向上に大きく貢献している。

### (4) 普及性と今後の発展方向

耕作放棄地を含む作業受託面積の拡大、高品質低価格TMR供給および飼養管理技術指導による規模拡大を志す者や新規就農者への支援、高齢者の経営延長支援等は地域を支えるモデルであり、併設の育成牧場による酪農家の労力軽減、黒毛和種肥育素牛生産は菊池地域の畜産業の発展の基礎であり、全国の先導事例と期待できる

### (2) 内閣総理大臣賞

- 出品財 経営（養豚）  
【飼養衛生管理徹底と完全無薬化による安全・安心で健康な豚肉の生産】
- 所在地 岐阜県高山市
- 氏名等 吉野 毅・吉野 聡子
- 表彰行事 第51回日本農業賞
- 受賞理由

### (1) 地域の概要

高山市は、岐阜県の北部に位置し、岐阜県下3農場のうち高山農場と白川農場が位置している飛騨地域の農業産出額は、令和3年度で186億1千万円であり、うち畜産は42.6%の79億3千万円であるが、飛騨牛が59億7千万円とその大半を占めている。

### (2) 受賞者の取組の経過と経営の

表1 令和4年度（第61回）農林水産祭天皇杯受賞者一覧

部門	出品財	受賞者		表彰行事
		住所	氏名等	
農産・蚕糸	経営 （水稻、小麦、大豆）	福島県 南相馬市	有限会社 高ライスセンター （代表 佐々木 教喜）	第62回 福島県農業賞
園芸	経営 （コチョウラン）	滋賀県 東近江市	有限会社花匠 （代表 川口 正）	令和3年度全国 優良経営体表彰
畜産	技術・ほ場 （飼料生産部門）	熊本県 菊池市	株式会社アドバンス （代表 永田 浩徳）	第8回全国 自給飼料生産 コンクール
林産	経営 （林業経営）	静岡県 富士宮市	渡邊 定元	全国林業経営 奨励行事
水産	産物 （水産加工品）	北海道 留萌市	井原水産株式会社 （代表 井原 慶児）	第32回全国水産 加工品総合品質 審査会
多角化経営	経営 （水稻、栗ほか）	熊本県 山鹿市	株式会社パストラル （代表 市原 幸夫）	第51回 日本農業賞
むらづくり	むらづくり 活動	長野県 上田市	稲倉の棚田 保全委員会 （代表 久保田 良和）	第44回 豊かなむらづくり 全国表彰事業

## 現況

平成元年に妻と二人で100頭規模の養豚一貫経営を起業し、現在では岐阜県下で3農場を展開している。平成14年から完全無薬飼育を開始し、地域連携したブランド豚や6次産業化による経営多角化に取り組んでいる

## (3) 受賞者の特色

## ・衛生管理を徹底した完全無薬飼育を実現

「安全・安心で健康な豚肉」の生産を実現させるため、徹底したバイオセキュリティ対策を実践し、豚熱等の病気の侵入を防止している。また、肉用豚に抗生物質等を一切使用しない完全無薬飼育を実践しながら、3農場の平均農場事故率は4%（令和2年度）と全国平均を大きく下回っている。

## ・ブランド豚生産や6次産業化を実現

豚肉の差別化や地域ブランド化を目的に、3品種を祖先とした雌系統と2品種を祖先とした雄系統を交配して生産する無薬飼育の豚を核として3種類の銘柄豚化を図り、付加価値を高めている。また、銘柄豚を使用したレトルト食品等による6次産業化も実現している。

## ・女性の活躍

役職員20名の内6名が女性であり、繁殖部門に加え、豚肉の販売促進活動や、各種養豚関連行事でも大きな活躍を果たしている。また、聡子さんは経営権の半分を持ち、「岐阜県女性農業経営アドバイザー」としても活躍している。

## (4) 普及性と今後の発展方向

農場の特色である徹底した衛生管理体制や完全無薬飼育の確立は、感染症に悩む全国養豚場の規範となると期待できる。今後の取組として、加工販売施設の設置や白川農場に続き他2農場も食の安全だけでなく労働安全や環境保全など生産工程における全般について適切な農業者に付与されるJGAP認証の取得を目指している。ご子息2名も農場長として就農しており経営の継続性も高く、今後の発展も期待できる

## (3) 日本農林漁業振興会会長賞

## 1) 出品財 経営（採卵鶏）

【小規模採卵養鶏経営における女性の活躍をいかした6次産業化の実現】

## 2) 所在地 岡山県笠岡市

## 3) 氏名等 有限会社 たかた採卵(代表 高田 安紀彦)

## 4) 表彰行事 第61回岡山県農林漁業近代化表彰

## 5) 受賞理由

## (1) 地域の概要

笠岡市は、岡山県の西南端に位置し、瀬戸内の温暖な気候をいかした様々な農畜産物の生産がなされていたが、平坦地が少ないなど地形的には必ずしも恵まれているとはいえない地域であった。養鶏は戦前から盛んで、鶏卵生産額は県の約1割を占める。

## (2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

現在の経営代表者は、昭和29年に種鶏改良から始まった採卵養鶏業の3代目である。平成25年に引き継いだ経営自体は4万羽規模ではあるが、鶏卵の地産地消、6次産業化、高付加価値化・ブランド化に成功し、従業員約40名の7割を女性が占める。

## (3) 受賞者の特色

## ・消費者から評価される鶏卵の生産

木酢液・海藻・よもぎ粉末を添加した飼料を給餌して生産された鶏卵やその加工品は、様々な販路を通じて地元を中心にほぼ全量を消費者に直接販売している。

## ・高付加価値化・ブランド化の実現

一般スーパーの卵よりも高価格ではあるが、地元消費者がコンスタントに9割を購入しており、高付加価値化・ブランド化とともに地産地消に成功している。

## ・加工兼直売所「たかたのたまご」での6次産業化への取組

「たかたのたまご」では、卵販売のほかケーキなど

の製造販売を行い、また併設する食堂では卵かけご飯を提供するなど、6次産業化を実現している。

## ・女性が働きやすい環境の整備、ならびに責任の自覚と労働意欲の活性化

フレックス制の導入、能力に応じた管理業務への登用など、女性に限らず働きやすい職場造りで、従業員のアイデアと責任感を引き出している。

## (4) 普及性と今後の発展方向

たかた採卵における消費者への高い販売力や、女性を含めた従業員が働きやすい職場作りは、農業経営体の企業の展開が期待される中において、今後の展開方向を示すものと考えられ、取り組みが普及することが期待される。

## (4) 内閣総理大臣賞・女性の活躍

## 1) 出品財 女性の活躍（畜産）

【働き方改革で従業員の満足度向上。養豚業を誇れる仕事に！】

## 2) 所在地 熊本県菊池郡大津町

## 3) 氏名等 セブンフーズ株式会社（代表 前田 佳良子）

## 4) 表彰行事 令和3年度全国優良経営体表彰

## 5) 受賞理由

## (1) 地域の概要

大津町は、八方ヶ岳から東部の阿蘇外輪山の鞍岳まで山岳が連なる山林や、菊池溪谷を成す清冽な菊池川の源流などの豊かな自然に囲まれた地域で、菊池平野を中心に肥沃な土地を形成している。特に畜産業においては、西日本有数の産出額を誇る。

## (2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

女性社長が経営する養豚一貫経営であり、IT等先進技術を積極的に導入することで、大規模経営を確立した。現社長の入社当時（平成19年）出荷頭数240頭、従業員4名から平成31年には5.3万頭、77名へと急激に事業拡大し、大幅な収益増加を可能とした。

## (3) 受賞者の特色

## ・働き方改革

平成26年に、複数の若手女性従業員が退職したことを契機に、完全週休二日制、長期休暇制度、マタニティプログラム制度を活用した職場環境や給与体系の改善を図ると同時に、野菜部門での機械化・自動化により肉体的労働の負担を軽減させる施策を実施。これらにより、従業員満足度が向上し、離職率が低下している。

## ・持続可能な循環型農業の実践

食品残さなどの未利用資源を家畜の飼料として利用し、家畜の排泄物や発酵床で作った完熟堆肥を用い、自社農場で野菜を栽培し、その野菜を食品工場に納品するという自社完結型で持続可能な資源循環型農業を実践している。

## ・IT技術の積極的な導入

豚の耳にICタグをつけて個体管理するシステム、体調に合わせて餌の量を調整する自動給餌システム、餌を食べる時に通過するソーターで、自動で体重が計られ選別される適正体重自動出荷システムを導入し、安心・安全な畜産物の生産向上に繋げている。

## ・女性の活躍

代表取締役社長が女性であるだけでなく、役員への女性の積極的な登用などにより、人材育成を図っている。また、妊娠した従業員の業務内容を畜舎での作業から事務所での事務作業とするなど、勤務を継続することができる環境を整備。地域の子どもたちを招待した農育活動や、女性の視点でアニマルウェルフェアにも取り組んでいる。

## (4) 普及性と今後の発展方向

同社の目指す農業は、持続可能な循環型農業であり、養豚・野菜生産事業を核として、耕畜農家や食品会社など食に関わる人々を環にした食品リサイクルループの取組を拡大することとしており、今後の発展も期待できる